

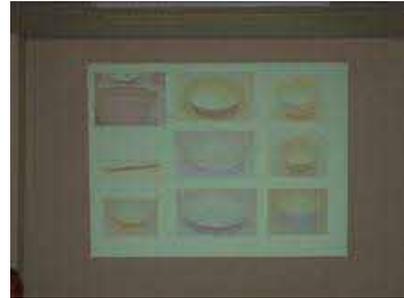
エコ生活のススメ～受け身の「消費者」から、主体的な「選択者」に～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月20日

2008年3月22日（土）に環境情報活動センターにて講師に善財裕美先生とケーブルテレビしながわアナウンサー松元さんをお招きして環境講座『エコ生活のススメ～受け身の「消費者」から主体的な「選択者」に～』が開催されました。

今回は、少人数ではありましたが受講者の方の疑問や今やっていること試している事などについて、積極的に質問することができ、対話型の講座となりました。



主にグリーンコンシューマー活動（環境に配慮した買い物）についてのお話をさせて頂き、先生が実用している物の紹介や、イベントでの食器などの貸し出し活動などについて聞きました。捨てるものではなく、何度も使える物を使っていかなければいけないのです。

写真の貸し出し食器（一部）ですが、学校統合なので要らなくなってしまった食器を買い再利用しているそうです。資源の無駄をなくすためにも、大きなイベントを行う企業さんや学生さんは是非お試しください！

そして食器と言えば、マイ箸活動。という事でのマイ箸についての話も盛り上がりました。最近はいろんなマイ箸が売られていますね。でも使っている人はどのくらいいるのでしょうか？まだまだ浸透していない気がします。そこで参加して下さった皆様には松元さんからマイ箸情報として、しながわエコフェスティバル2008の情報を一足先に聞くことができました！皆さんも楽しみにしてください。

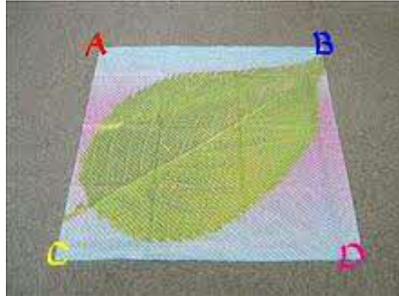
最後に風呂敷で作るバック講座です！



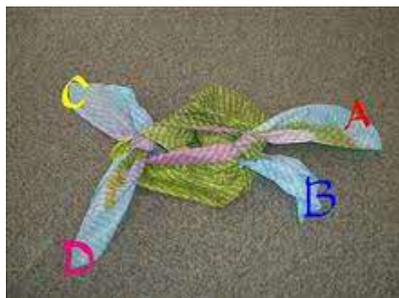


先生が簡単な作り方を教えてください受講者の皆さんとスタッフで挑戦してみました。

1. まず風呂敷を開きます。4つの端をA-Dとします。



2. AとBの端とCとDの端を深めに結び二つの結び目を作ります。この時、端はウサギの耳のようにになっています。



3. その二つの結び目のそれぞれ違う方 (AとC、BとD) を上の方でかた結びをし輪をつくりその輪をぎゅっと引っ張ります！そうすると風呂敷バックの完成です！！



どうですか？こんなに簡単にできちゃいました！

今回風呂敷バックの作り方は一部のみ教わりましたが他にもいっぱいあります！

色々研究して是非、マイバックとして風呂敷を御買い物のお持ちください。写真を撮り損ねてしまいましたが、先生が講座当日に持ってきていた風呂敷バックは、一見、風呂敷だと全く気づかないほど、素敵なバックになっていました。どうやら風呂敷の素材や柄などにごると、とてもおしゃれなバックになるようですね。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月20日

さき布から「ぞうり」を作ろう

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年04月29日

2008年4月29日（火）と5月6日の2日にわたり環境情報活動センターにおいて「環境リサイクル講座 ～さき布から“ぞうり”を作ろう～」が開催されました。ゴールデンウィーク中の2日出席にもかかわらず、25名の定員になんと150名を超える応募をいただき人気講座でした。

本講座は家庭にある古布を使ってオリジナルのぞうりを作る講座で、ぞうり作りを通してリサイクルに関心を持っていただくことが目的です。当日は、布ぞうりサークルから3名の指導者を迎え、受講者たちは熱心に布ぞうり作りに取り組みました。

1日目はぞうりの本体作りです。初めは戸惑いから心配顔もありましたが、作業が進む内にみなさんの手の動きは滑らかになって行きました。1テーブル6人のメンバーは以前からの友達のように和気あいあい、部屋中明るい雰囲気でした。



2日目は鼻緒作りから始まりました。布を芯に巻きつけて行きますが、ここでしばらく手が止まります。しかし、お互いの協力で着実に完成に向かって前進です。



今回は2日間の講座、計5時間をかけて一足出来上がりました。みなさんの満ち足りた笑顔が印象に残っています。

楽しかった、以前から布ぞうりを作ってみたかったが夢が叶ってよかった、なかなか難しかった等、様々な声をお聞きしました。人気の講座ですので、今後の開催も検討したいと思っています。



こんなふうになります

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年04月29日

環境都市江戸に学ぶ

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年05月17日

5月17日(土)品川歴史館において環境学習講座「環境都市江戸に学ぶ」（講師：同館 富川武史学芸員）が開催されました。



品川歴史館 富川武史学芸員（講師）と聴講者

徳川家康の江戸入府（天正19・1590年）以後、江戸のまちが整備されるにつれ、品川は「江戸の南側の玄関口」となって行きました。その後江戸から京への東海道の第一番目の宿場として、目黒川（品川）を挟んで南北に形成されました。



品川宿の賑わいを見せている。江戸後期の地誌（「江戸名所図会」上巻より）

多摩川の上流から四ツ谷まで引かれた玉川上水は、江戸に住む人びとの生活を支えました。また四ツ谷から地中に埋めた木樋や石組の水道管で供給され、人びとは溜め井戸から水を汲み上げて使用していました。品川宿の上水は8里の道のりを経て玉川上水を引いていました。台地であった品川では水の確保に苦勞をしたのですが、上水施設を整えていたのですね。



仙台伊達家上屋敷（汐留遺跡）出土の上水遺構[右]と下水遺構[左]

一方、下水は溝の側溝に流れていましたが、木か石の板で覆われていたところと、露出していたところがありました。また排泄物は基本的に肥料として再使用さ

れたため下水には流されず、また、当然現在のような工場排水や洗剤などもなかったことから、当時の下水は現在よりもずっときれいでした。わたしたちの中にも、過去の生活においてこのような下水の記憶を持っている人は多いと思います。また、町屋から集められた下水は東海道の下を通り、海に流れ込むようになっていたようです。

絵図の中央部分に左右に東海道が描かれており、それを横断するように何本もの石樋や石橋が記されています。



東海道分間延絵図（文化3年・1806年成立、東京国立博物館所蔵）に加筆したものの

品川歴史館の常設展示場では、品川宿を中心に品川の歴史を学ぶことができます。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

品川歴史館（品川区大井6-11-1）

最寄り駅：JR大森駅徒歩10分、JR大井町徒歩15分、バスの便あり

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年05月17日

エコな買い物～環境にやさしい買い物をしましょう～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月22日

2008年6月22日（日）に環境情報活動センターにおいて講師にカタログハウスの竹本 徳子さんをお招きして、環境講座「エコな買い物」が開催されました。今回は、大変な雨にもかかわらずたくさんの方に参加して頂き、双方向型の講座となりました。

講義の一部を紹介します。



「フードマイレージ」とは

皆さん、「エコによい買い物」で思いだす言葉は、との講師の質問に、環境に意識の高い受講者の皆さんからは、即、エコ・バッグ、地産地消、簡易包装、との声があがりました。それに対して講師は「しかり。しかしです皆さん、レジ袋も大切ですが、環境を考えるなら、毎日買う食品を輸入品から、国産品に変えるだけでより多くのCO2が削減できます。食べ物に係る輸送距離のことをフードマイレージといいます。海外から船舶や飛行機を利用して、日本に輸入される際に排出されるCO2の量は計り知れないほど大きいのです。食品は毎日買う量も多いから、これをすべて国産品にするだけで、一度でレジ袋の100倍もCO2を減らすことができます。物流にかかるCO2の排出量はそれほど大きいのです。」とお話しされました。



「モーダルシフト配送」って、知っていますか。

たとえば、九州や北海道など東京から遠隔の地域への品物の輸送に、トラックだけでなく、よりCO2排出量の少ない鉄道や船舶も利用する輸送方法で、日本の物流における鉄道の利用率をもっと増やして、モーダルシフトの配送にすることで、より多くのCO2の削減が期待できるとのことでした。



「地球温暖化時代のエコな買い物」ってどんな買い物なのでしょうか。

猛烈な勢いで進んでいる地球温暖化の時代に、「もっと使わせろ、捨てさせろ・・・、無駄遣いさせろ」の20世紀型経済成長論はもう通用しません。地球は悲鳴をあげています。

竹本講師は、商品を守る側からの企業のとりくみとして、できるだけ「地球と生物に迷惑をかけない商品」、「永持をして、いつでも修理できる商品」、「温故知品」、「回収再資源化」、「地産地消、自給自足」の商品憲法についてと、市民が日常生活でできることも沢山あり、必要な物を必要なだけ買う、毎日の食事に使う食材の産地、フードマイレージ等を考え、体に良い物を買うなど、市民感覚での意識改革が如何に大切であるかをお話し下さいました。

市民一人ひとりが、小さくとも自ら行動することが大事なのです。意識の啓発、自分のまわりの半径5m以内にいる人々に継いで行くことで、その輪は大きくなり、広がりをつくることのできるのです。

以上

カテゴリ : 平成20年度

投稿日 : 2008年06月22日

シロクマと温暖化

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月29日

6月29日(日)品川区環境情報活動センターにおいて環境学習講座「シロクマと温暖化/温暖化がシロクマの生存に影響している」(講師：写真家 丹葉暁弥氏)が開催されました。

地球温暖化は、北極圏周辺に生息するシロクマの生存にも影響を及ぼしています。何気ないわたしたちの日々の生活が、可愛いシロクマにも影響していることを、人間との共存という観点からお話いただきました。



丹葉暁弥氏(講師)と聴講者



1998年以降、毎年訪れている
カナダの町(チャーチル)
(中央の右上の湾がハドソン湾)

チャーチルはカナダ北東部ハドソン湾の奥('CANADA'表示の'NA'の下あたり)にあり、毎年10月から11月にかけてシロクマたちが集まってきます。河口地帯になっているため海水の塩分が薄く、ハドソン湾が最初に凍ることをシロクマは知っています。

気持ちよく眠るシロクマ



こんな愛らしい仕草もします



戯れるオス(左)とメス(右)



シロクマは陸上に棲む最大の肉食動物ですが表情豊かでこんなにかわいい動物です



地球温暖化はシロクマにとって大変大きな問題です。温暖化により北極海の氷の面積が減り、また氷の張る期間が確実に短くなっています。氷がなくなるとアザラシが氷の上で子育てが出来なくなってしまうので、主食であるアザラシが捕れなくなります。シロクマがアザラシ猟に出られる期間が短くなっているのです。今やシロクマは飢えに直面しています。

年々個体数が減っているのが撮影に通っていて、はっきりと分かるとのことでした。また今後30年以内には、絶滅してしまうのではないかと危惧されています。温暖化は私たちの気付かないところでも確実に進行しているのですね。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年06月29日

太陽光発電～未来のエネルギー社会に向けて～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月15日

7月15日（火）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「太陽光発電～未来のエネルギー社会に向けて～」（講師：NPO法人 太陽光発電所ネットワーク事務局長 都筑建氏）が開催されました。

洞爺湖サミット後のマスコミ報道も盛んな時期であり、出席者の聴講意欲も自ずと増していたようです。今回の講座には既に太陽光発電を自宅に導入している方や、導入を検討している方の出席もあり、皆さん熱心に講義に耳を傾けていました。



熱心に講義を聴く皆さん



太陽光エネルギーは莫大かつ無限

晴れている時は家庭内使用量以上の発電があり、その分は電力会社を買ってもらいます（売電）。一方、雨のときは発電量が少ないため電気を買うことになります（買電：一般の家庭と同様）。各住宅には売り買いする電気の量を測定する機器が設置されます。

一般的な家庭での設置例では、発電能力4キロワットでほぼ自給可能となり、設置費用は200～300万円とのこと。自治体によって一部補助金はあるものの、現在電力会社がい取ってくれる電気料金が安いので、現時点では費用に見合った効果は出ないとのこと。しかし太陽光発電のコストは着実に下がる見通しで、数年後には現在家庭で購入している電気料金とほぼ同一価格になると予想されているとのこと。

マンションには新たに設置はできないと思われがちですが、ベランダに設置するボックス型のものもあります。



このパネル1枚で動くミニ扇風機



ベランダ太陽光発電

個人住宅では今でも日本は世界一の太陽光発電の国ですが、これを伸ばすことが

未来のエネルギー社会形成のベースになります。言い換えれば太陽光発電は持続可能な社会づくりの実現に大きく寄与する発電と言えます。

福田首相は、中長期目標として2050年までにCO2の排出量を60%から80%削減すると表明しています。また洞爺湖サミットでは2050年までに地球温暖化ガスの半減目標を「世界で共有する」と表現しています。これら目標の達成には太陽光発電や風力発電など、新エネルギーの普及なしには困難と言えるのではないのでしょうか。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年07月15日

夏休み子ども環境講座「気象予報士から学ぼう、ストップ地球温暖化」

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年07月25日

7月25日（金）品川区環境情報活動センターにおいて、夏休み子ども環境学習講座「気象予報士から学ぼう（第1回目）」（講師：NPO法人 気象キャスターネットワーク 長島純子氏）が開催されました。

さて「夏を涼しく過ごすには？」の質問に、即座に「打ち水」との答え、正解です。「地球温暖化の原因は？」の問いには‘CO2’と答えが返ってきます。気象予報士からの問題が続きますが、皆さんの手がいつせいにあがります。



参加している皆さんの知識は大変豊富で、うかつなことは言えないというのが講師の本音かもしれません。



（夏を涼しく過ごすには？） （南方の島が海に沈んでしまうかもしれない）
北極の氷が解けてきている、南方の島“ツバル”が海に沈んでしまうかもしれない、北海道大雪山の万年雪が以前に比べ少なくなっている等々、地球温暖化の影響が世界各地に現れています。私たちの生活の仕方でもできる限りエネルギーを使わないようにして行かないといけないとの話がありました。

「今」の生活（写真左）と「昔」（写真右）の生活を比べてみましょう。



「今」の生活ではどこにムダなエネルギーを使っているのでしょうか？ ここでもいつせいに皆さんの手が上がります。そうです、テレビ、ラジカセ、冷蔵庫、水道、クーラー、車、電灯、レジ袋、携帯電源の使い方にムダがありそうです。それに比べ「昔」の生活では打ち水、買い物かご、うちわ、よしず、かや、井戸水など、エネルギーをあまり使わない生活をしていたのですね。昔と同じ生活をする

ことは大変ですが、もう少しエネルギーの節約を考えて生活する工夫をしましょう。



(屋外での実験、暑かったね)



(屋外で測った温度を発表しよう)

さて次は部屋から外に出て、暑い夏の太陽の下で何ヶ所かの温度を測ってみましょう。

自転車のサドルの上付近で59.2℃、黒い色をしたコンクリートの地面近くでは60℃を超えてところもありました。また一方低い方では、土の上で31.0℃、草の中では33.6℃と同じ屋外でも大きな差がありました。測る温度に驚きながら、汗が流れるのも忘れた炎天下でのしばらくの時間、本当にお疲れ様でした。

部屋に戻ってからはエコうちわに絵を描きます。今日学んだことをうちわに描いてみましょう。環境や自然を意識して未来の地球の絵を、夏の涼しい街を、みなさんそれぞれの思いで楽しく描きました。



(皆さん上手に描けました)

以上

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年07月25日

キッチンからはじめるエコロジー～地球にやさしい旬の料理をつくろう～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月04日

平成20年8月4日、5日、6日の3日間、夏休み子ども環境講座『キッチンからはじめるエコロジー、地球にやさしい旬の料理をつくろう』を、本年度は品川介護福祉専門学校内の調理実習室で開催しました。

身近な「食」を通して、楽しみながら環境問題を考えようというこの講座には、今年もたくさんの皆さんに参加していただき、キッチンは、連日、元気な子どもたちの熱気でいっぱいでした。

東京ガス株式会社 南部支店エコ・クッキングインストラクターの皆さんのご協力を得て、環境に配慮した買物、料理、片付けに至る一連の流れの解説と、調理のデモンストレーションが行われました。ゴミを出さない野菜の上手な切り方、皮付きのままの調理、省エネなお湯の沸かし方、生ゴミはチラシで作ったゴミ箱にすてる、汚れたお皿は古布で拭いてから洗うなど、誰にでもできるエコポイントがたくさんあります。



さあ、それでは、いま教わった事を確認しながら、調理開始です！ みんな少し緊張ぎみ。でも楽しそうですね。



メニューは3品、「いろいろ入れてドライカレー / イタリアン卵スープ/ キャロットオレンジ寒天」です。大忙しですね！

いろいろ入れてドライカレー



冷蔵庫に残っている野菜やお肉を使っておいしく出来るから、冷蔵庫の整理にもなりますね。野菜はできるだけ皮ごと使ってゴミを減らす工夫をしましょう。たまねぎの皮とかピーマンの種など食べられないところは、チラシで作ったゴミ箱に入れます。三角コーナーにゴミを溜めておくと、水を流すたびに汚れた水が出ますし、ゴミが水を含んでしまうのです。

イタリアン卵スープ



捨ててしまいがちなレタスの外葉やセロリの葉でも代用できるから、無駄がなく、しかも健康的な料理です。粉チーズや旬のトマトも入れて、とてもさっぱりと出来上がりましたよ。

キャロットオレンジ寒天



キャロットオレンジ寒天は、ニンジンとオレンジジュースと一緒にミキサーにかけているので、ニンジンの味も目立たず、だれにでも簡単にできる美味しいデザートでした。

さあ、できました。作り終わった班から試食開始です！ 自分で作った料理の味はまた格別ですね。みんな、も～満足そう。

食べ終わったところで、次は、後片付けです。ここにもたくさんのエコポイントが

ありますよ。水で洗う前に、小さく切った古布などを利用して汚れたお皿を拭きます。そうすることで、汚れの半分以上が落ちてしまいます。洗剤はボトルに書いてある使用量に従って、ボールいっぱいの水に洗剤を溶かし、その水で汚れた食器類を洗います。



身近な「食」の中で、私たちにできるエコはたくさんありました。一人ひとりがエコを意識した生活をするのが、私たちの地球環境をとりもどす為の第一歩ということなのですね。気づきの多い講座でした。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年08月04日

夏休みこども環境講座「気象予報士から学ぼう、ストップ地球温暖化◆」

夏休みこども環境講座「気象予報士から学ぼう、ストップ地球温暖化」

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月09日

8月9日（土）品川区環境情報活動センターにおいて、夏休みこども環境学習講座「気象予報士から学ぼう（第2回目）」（講師：NPO法人 気象キャスターネットワーク 福田寛之氏）が開催されました。

●地球温暖化でどんなことが起こっているのでしょうか

次のようなさまざまな現象が、地球温暖化の影響で起こっているのかもしれません。

・全国各地で最高気温が更新され、日本での最高気温は2007年8月に埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市で40.9℃を記録しています。また東京でも2004年7月に39.5℃を記録しました。以前は35℃を越える日は1年に1回くらいしかなかったのですが、最近はそのが多くなり、新たに猛暑日（最高気温が35℃以上の日）が設けられました。

このように暑い日が多くなっていますが、「熱中症について知っている人」の問いかけに、「暑い日に運動などをして水分をとらなかつたりすると、倒れたり脱水症状を起こす」との答え。素晴らしい！よく知ってますね。

この後も次々と問題が出されますが、みなさん元気に手をあげます。



・地球の気温はこの100年間で0.7℃高くなっており、日本では1℃上がっています。

私たちの体温で考えると36.5℃が37.5℃になっていることになり、風邪で言えば微熱です。地球が少し熱を出した状態ですね。

・海の温度はどうでしょう？ 三択問題ですが、多くの手があがったのは'0.5℃'です。

その通り、0.5℃しか上がっていません。しかし北極やグリーンランドの氷が溶けたり、島が沈みそうになっていたりしています。



・シロクマ、セイウチなど北極の動物が絶滅するとも心配されています。

・北海道の知床では流氷が見られなくなっています。ここは良い漁場であったのですが、そうでなくなるかもしれません。

・鮭の仲間は暖かい海が嫌いで北の海に行ってしまう、日本の漁師は鮭を獲ることができなくなってしまう。

●「海面上昇実験」

海面が上がる理由は？ 100年後海面は59cm上がる(*)とされています。なぜで

しょう？

2番目の理由は「グリーンランドなどの氷が溶ける」ですが、1番は何でしょう？

みなさんからいろいろな答えが返ってきます。

正しい答えは「海の温度が上がるから」です。水は温度が上がると量（容量）が増えるため、海面の水位が上がるのです。さて実験を始めましょう。

フラスコの中に水が入っています。この水を海水に見立てます。この周りに湯を入れてみましょう。しばらくすると水がフラスコの上につけたガラス管を上ってきます。海面水位の上昇はそんなに大きくはない(*)けれど、海面が少し上がるだけで、高潮や津波が堤防を越えてくる可能性が高くなるのです。



●手回し発電機を使って「竜巻実験」

最近日本でも竜巻が増えています。竜巻と地球温暖化の関係はまだはっきりしていませんが、もしかしたら関係しているかもしれません。

実際に竜巻を起してみましよう。

竜巻はどうして起こるか？ 本当の原因はわかっていません。

狭い範囲で突然起こること、また発生している時間も短いので、現在の科学でもってしてもわかりません。

竜巻を作る装置です。PETボトルの下半分を切ったもの、ファン、ドライアイスなどを用意します。みなさん代わる代わる手回し発電機でファンを回し、ドライアイスの煙を吸い上げます。



ドライアイスの煙が巻き上がっているのが見えるたびに元気な喚声が上がります。

いろいろな質問に対し答えを考えたり、楽しい実験を通して地球温暖化を勉強したみなさんの顔には笑顔が輝いていました。

(注意)ドライアイスは手でさわると危険だから、手袋を使うなどして注意しましょう。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月09日

夏休みこども環境講座「気象予報士から学ぼう、ストップ地球温暖化」

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月24日

8月24日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、夏休みこども環境学習講座「気象予報士から学ぼう（第3回目）」（講師：NPO法人 気象キャスターネットワーク 鈴木秀美氏）が開催されました。

今回のテーマは「地球温暖化はどうしたら防ぐことができるのか」です。

「地球温暖化の原因となっているものは何でしょう？」の問いかけに、みんながいっせいに‘CO2’と正しく答えます。‘CO2’以外に地球温暖化を引き起こしている物質（温室効果ガス）がありますが、それらがなくなったら地球の温度はどうなるのでしょうか。

約-19℃（冷凍庫の温度くらい）になってしまい、動植物は絶滅してしまうでしょう。温室効果ガスもある程度は必要なことを勉強しました。次々と問題が出されますが、みなさん元気に手をあげます。また熱心にメモをとっています。



元気に手をあげます

わたしたちの生活の中でいろいろなことにエネルギーを使っていますが、どんなところで使っているでしょう。また元気な手があがります。水を使う、料理を作る、エアコンを使う、電気をつける、車に乗る等々、まだまだ一杯あります。

それでは毎日食べる料理の材料はどこから運ばれてくるでしょう。みなさんに国の名前が書かれたカードが配られ、それを世界地図に貼って行きます。こんなに遠く離れた国から、たべものが運ばれて来ることに驚きの表情が見られます。これらを運ぶのに大変なエネルギーを使っており、CO2もたくさん出しています。国内やできるだけ近い国で生産した食べ物を利用した方が環境にやさしいですね。

世界の勉強をしたところで地球儀（*）を作ってみましょう。みなさん真剣な顔で、黙々と地球儀作りに励んでいます。



地球儀作りに一生懸命です



完成見本です

（自宅に持ち帰って完成させます）

ものを運ぶ方法には車、電車、飛行機、船などいろいろあり、いずれもCO2を出しますが、その中でも自家用車が出す量が最も多いのです。車を動かすときにど

れくらいのエネルギーを使うのでしょうか。手回し発電機を使ってラジコンカーを動かしてみましょ。手回し発電機を30秒間回したともだちは疲れきった様子です。ラジコンカーが走るのを見ながら、車がエネルギーを使って走っていることを体験しました。しかしその車がたくさんのCO₂を出していることもよく覚えておきましょう。



手回し発電機（疲れました）



ラジコンカーが勢いよく走ります

今の生活でCO₂を減らす方法は他にもあります。

家族のみんなが一緒の部屋で過ごす、電気のコンセントをこまめに抜く、風呂の残り湯を洗濯に使う、エアコンの使用は控えめに、シャワーの水や湯を出しっぱなしにしない等々

また旬の野菜や果物を食べましょ。

旬でないものを作るためにはたくさんのエネルギーが必要です。季節の野菜や果物はおいしく、栄養素も豊富です。いっぱい食べて、元気に夏を乗り切りましょ。



旬の野菜を食べましょ

みなさん、アンケートに答えてくれましたが、その中に「私も気象予報士になりたい」という声がありました。よく勉強してくれた証拠です。頑張ってくださいね。

(*) わたしたちが普通に目にする地球儀と違い、雲画像地球儀というもので、人工衛星から見た地球です。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年08月24日

ゲームで学ぶ「海外から来た生き物が、国内生物に及ぼす影響」

カテゴリ：平成20年度

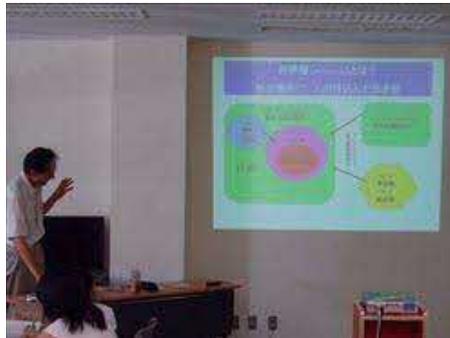
投稿日：2008年08月31日

8月31日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「ゲームで学ぶ『海外から来た生き物が、国内生物に及ぼす影響』」（講師：(財)世界自然保護基金ジャパン 自然保護室次長 草刈秀紀氏）が開催されました。

●外来生物の基本

海外から来た外来種（注）が、昔から日本国内にいた生物（在来種）に及ぼす影響について、カードゲームを楽しみながら勉強しました。「外来種」あるいは「外来生物」という言葉を時々耳にしますが、分かりやすく言えば「もともとその場所にはいなかった生物（動植物）を、人間が別の場所から持ち込んだもの」です。

（注）必ずしも「海外から」だけではなく、例えば国内でも西表島（沖縄県）にしかないイリオモテヤマネコを本州へ持ってきた場合、これは外来種になります。



持ち込み方として2つの場合があります。一つは「私はこれを持ち込みたい」と言って持って来た場合（意図的導入）と、もう一つは海外でトレッキングをしていて、服などに植物の種がついたまま飛行機に乗ったり、海外から輸入した木材の中にまぎれ込んで生き物が入ってきた場合（非意図的導入）とがあります。後者の場合のように、知らず知らず持ち込むケースも少なくありません。

外来種の被害をなくしていくためには、◆持ち込まないこと(進入させないこと)、◆発見した場合にはすぐに対応すること、◆定着している場合には防除・管理をすること、です。かわいいから飼ったけれど大きくなって手に負えなくなって放してしまうというのはダメです。

●外来種が在来種に及ぼす影響

◆外来種が在来種を食べてしまい、本来の生態系を乱します。

例えばマングースはいろいろな種類の生き物を食べてしまいます。

◆在来種と同じエサを食べることにより、その地域に住んでいる生き物を追い出してしまいます。

◆日本ザルと台湾ザルの交雑で、純粋の日本ザルはいなくなってしまう。

◆毒ヘビや毒サソリなど、人の生命に影響を与えたりします。

◆その他にも、外来種が人間に危害を加えたり、畑を荒らしたりします。

●トランプカードの説明

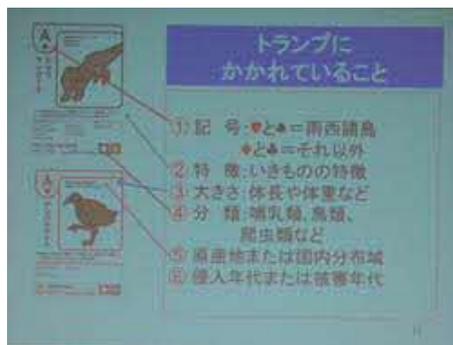
スペード：日本全土で問題になっている外来種

クローバ：特に南西諸島で問題になっている外来種

ダイヤ：日本各地にいる在来種

ハート：特に南西諸島にいる在来種

それぞれのカードには、その生き物の特徴、大きさ、類（哺乳類、鳥類など）、原産地、進入年度などが書いてあります。



例えば、ジャワマングースのカードには「ヤンバルクイナやアマミノクロウサギ、ケナガネズミ、ハナサキガエルなどを捕らえて食べる」と、またヤンバルクイナのカードには「ジャワマングースに食べられる」と書いてあります。必ず外来種と在来種が一枚ずつセットになっています。

●かるたゲーム：黒のカード（計26枚）を使います。1グループ4人

講師が生き物の説明書きを読みあげ、みんなはそれがどのカードか捜します。26枚取り終えたところで、かるたゲームは終了。何枚取れたかな？

外来種の名前やどんなところから来たのか、どんなものを食べているのかなどが少し分かりました。



●マッチングゲーム（花札／坊主めくりゲーム）

全部のカードを使います。1グループ4人はそのまま

赤のカード（26枚）をシャッフルし、4枚を表向けにして場に出し、残りを真ん中に山積みします。先ほど取った黒いカード（外来種）の中で、どれか赤のカード（在来種）を取れる（ペアになる）ものを捜しますが、大変そうです。マングースはいろいろな生き物を取ることができますが、取るのは1枚だけ。手元にある外来種がどんな在来種を食べるか、影響を与えているかを楽しみながら覚えて行きます。

●年代並べゲーム：52枚全部のカードを使います。

カードに被害年代や進入年代が書いてありますので、その年代順に並べます。並べてゆくと何かが分かりますが、さて何が分かるのでしょうか？

かなり昔に入ってきた外来種が、今日では在来種に影響を及ぼしていることが分かりました。稲も元々日本にはなかったものですが、外来生物法では、明治以降に入ってきたものを外来種とするとしています。



●まとめ

カードゲームを楽しむ間に、みなさんカードに書かれた内容をよく読んでおり、かなり頭に入ったようでした。最初のかかるたゲームの時には硬い表情のみなさんも、ゲームを進めるにつれて今日初対面の方も、家族あるいは以前からのともだちのように見えました。



「ゲームで学ぶ～」のタイトル通り、楽しみながら勉強できた講座だったと思います。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年08月31日

鳥から見た環境変化

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月21日

9月21日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「鳥から見た環境変化」（講師：自然観察大学副学長、埼玉大学教育学部講師 唐沢孝一氏）が開催されました。多数の参加者の皆様に前に、写真をまじえ、都市に生きるスズメ、ツバメ、カラスの生態などについて、講義を行っていただきました。



●スズメ

スズメは地味な野鳥で、民家の周辺に多く住んでいます。石川県の小松空港付近の白山に調査に行ったことがあります。山奥に行けば行くほどスズメが少なくなります。過疎地のように人がいなくなると、スズメとツバメも少なくなり、そして最後には全くいなくなってしまう。スズメとツバメは人が住んでいない環境には住めない鳥だということが分かります。

私は、自宅の庭に来るスズメに名前をつけて8年間ほど観測したことがあり、一羽ずつ名前と足環をつけて区別し、出席を取るようになってみました。その観測の結果、分かったことは、若鳥は1年で来なくなり、成鳥は定期的に渡ってきます。また成鳥には定着性があり、ある一定の数が同じところに定住しています。死亡などで数に空きが出来ると若鳥がそこに入り込みます。若鳥は若鳥同士でグループを作り行動を共にしています。台風などが起きたとき大きな樹にスズメが止まっていることがありますが、これは若鳥のグループです。

従来、スズメは民家の屋根の裏側に住処を作っていましたが、最近では住宅に住めなくなったため、都市部のビルなどに居を移す傾向にあります。

●ツバメ

東京駅八重洲口にあるビル、神田神保町のビルの駐車場に掛けた巣が大事にされています。もともと農業に従事している人が多かった日本は害虫を食べてくれる、ツバメは益鳥でした。だから、これらの駐車場では、車にツバメの糞が落とされても巣を大事にし、土曜・日曜の休日にもシャッターは閉めても、通り穴を開け、電気を消さないよう手厚く保護されています。

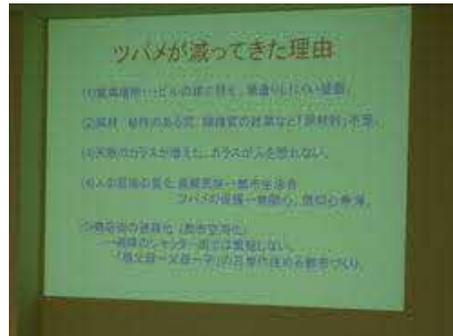


私が調べたところ日本で一番ツバメが多い町は成田市で、その数は東京の20倍から25倍にもなります。その理由としては

- ◆食物と巣の材料が多い（水とみどりに恵まれている環境がある）
- ◆安全と安心（人の存在、対面販売をすることで商売に活気生まれる）
- ◆ツバメの繁殖（商売繁盛のあかし）

そのほかでは、愛媛県松山市の道後温泉の道後館本館の入口にもツバメの巣があります。これは繁華街で人が多いのでカラスが近づかないことと、温泉に入場する人の出入りが多い事が関係していると思われます。そんな益鳥のツバメも年々減少しています。その理由は、次のような環境の変化が原因だろうと思われます。

- ◆営巣場所（ビルの立替、巣作りしにくい環境）
- ◆巣材不足（粘性のある泥、繊維質の雑草などの減少）
- ◆天敵のカラスが増えた（カラスが人を恐れなくなった）
- ◆人の意識の変化（農耕民族から都市生活者に変化）
- ◆商店街の過疎化（過疎のシャッター街では繁殖しない）



●カラス

「住みやすい街、東京」というカラスが描かれたイラストのポスターがあります。このポスターの目的は「仲間がふえています」とカラスの視点で考え「ゴミをきちんと出しましょう」と、ゴミ出しの注意を呼びかけるものです。これからはゴミを出さない工夫も必要でしょう。カラスは大変利口で、クリーニング店でもらうハンガーで巣作りをします。また食料を埋めて保存し、古いものから食べるという知恵もあります。さらに弱い人間を見極め、人との距離を測ることもできます。例えば、ひげの生えている人には距離をあげ、女の人ではやや近づく。子供の前ではすぐ近くに、というようなことができます。



ツバメの項で話したように「祖父母・父母・子」の三世代が住める環境づくりが大事なのではないでしょうか。

水と緑に恵まれ、活気ある商店街があり、益鳥であるツバメを大事にする。こういう環境を残してこそ、未来があると思います。

ツバメやスズメの棲めないところには人も住めないのです。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月21日

さき布からぞうりを作ろう！

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月23日

環境情報活動センターにて環境講座「さき布からぞうりを作ろう」が平成20年9月23日と28日の二日間、計5時間をかけて開催されました！



講師は「布ぞうりサークルしながわ」メンバーの宮嶋先生、アシスタントには同メンバーの川又さん林さんです。

初めてぞうりをつくるという方ばかりですので、まずは基本のぞうりづくりを教わります。センターにて先生たちの作品を展示中のため受講者の方はその作品を見て「自分もこんなのをあみたい」、「このやり方やってみたい！」などなど、作りたい気持ちがいっぱいのようなのですが、アレンジした自分のぞうりをつくるためにはまずは基本を覚えなくてははいけません。本を読んでもわからなかったという意見もありました・・・やはり実践あるのみ！なんです。



先生がおつくりになった板は床でやらずに済むため腰の痛い人でも安心してつくれます。



この講座は一人ひとりわからない所を教えて貰えるのが良い所なのですが、先生達は3人しかいないため全員を同時に見る事はできません。その時はお隣の方や同じ班の人であつまって助け合います！驚く事に、この講座は毎回受講者の方が仲良くなってお帰りになられるのです。楽しく協力しながら作品をつくるため2回目に集

まった時はお友達同士で集まった会の様でした。



「先生、教えてください」と、元気の良い受講生の方々が多かったです。



最初のヒモと布を合わせる作業が一番難しく、受講者の方々の頭の上には？マークがいっぱいでした。ですが、最初を終えてしまうとすらすらと半分できてしまいます。



皆さん、熱心に作業をされ本当は2日目に作るはずだった鼻緒の部分も1日目で説明に入っていました。



ここでもお隣さん同士協力して前緒をつくります。



そして、ついに完成です！！右側の白いぞうりはタオル生地で作ったぞうりのため生地の厚さが太く一番最初に完成いたしました。生地の違いでもいろいろ工夫ができるようです。



2日間で全員完成する事ができました！

今回の受講者の方も勉強熱心の方が多く2回目に来た時に「最初からまたつくったのよ」という方が多くいらっしゃいました。これからもどんどんつくって是非自分のアレンジしたぞうりをつくってみてくださいね。

来年も講座開催予定ですので今回、外れてしまった方々、楽しみにしててください！

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年09月23日

野菊の苔玉づくり

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月02日

平成20年10月2日（木）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「野菊の苔玉づくり」が開催されました。講師は寄せ植え講座でおなじみの、園芸研究家の伊藤金美先生です。秋草会の皆さんが助手を務めてくださり、受講生のみなさん一人ひとりにアドバイスをしてくれました。ありがとうございました。



今回使用する草花は、「フジバカマ」、「サンインヒキオコシ」、「ノコン菊」、「アシズリノジ菊」、「ナキリスゲ」の5種です。



まず、先生から寄せ植えの基本的なポイントとして、草花の特徴、用土、日当たり、又、配置の仕方、植物の性質の近いもので組み合わせるなど、詳しい説明がありました。

では、いよいよ実習に入ります。

まず植物のバランス、芯の向きをうまく考えて、土を少しずつ落とし、好みの形に配置します。形が決まったら、針金と紐で固定します。周りを土で固め、最後に苔を下地にしっかりと密着させて、紐をぐるぐる巻いたらできあがりです。



さあ、できあがりしました。それぞれはどれも地味な草花ですが、とてもエレガントなオブジェに変身しました！ かつての日本では、どこにでも見られた野辺の花が、この頃は、めずらしくなりつつあります。受講されたみなさんも今頃は、開化した野菊を觀賞しながら、在りし日の緑ゆたかな野山を偲ばれているのでは……。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月02日

白熱電球はなくなる！次は湯沸かし器がなくなるか！

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月26日

10月26日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「白熱電球はなくなる！次は湯沸かし器がなくなるか？」（講師：東京工業大学名誉教授、放送大学世田谷学習センター所長秋鹿研一氏）が開催されました。詳しい資料と豊富な知識に基づき、省エネルギーについてお話いただきました。

70年代オイルショックを経て、1980年より「省エネルギー法」が発足しました。この内容は随時改定され、発展をしている施策と言ってよいでしょう。90年代からは、エネルギー関連商品の効率改善のために、「トップランナー方式」が加わり、もっとも効率の良い機種をトップランナーとして、他の機種（メーカー）も数年以内にこれを超える効率の機種を開発するよう義務付けるものです。この「トップランナー基準」を定める委員会に当初から参加してきた立場から、この内容の意義やエネルギー有効利用の問題について話します。さらに、環境をも配慮した技術を育成するために始まろうとしている、「環境配慮契約法」についても、関連委員の立場から紹介し、皆さんとともに問題点を話し合いたいと思います。

「環境配慮契約法」

平成19年12月に閣議決定された法律。国の機関が購入する入札基準を金額のみでなく、環境への配慮にも価値をつけるというもの。自動車などがすでに開始。複写機・プリンターが検討中。



1.もったいない化石燃料

地球4億年の生命活動で長いことかかってできた貴重な化石燃料を、現代の人類は400年で消費しようとしている。生産速度に対し、消費速度はおよそ100万倍のスピードである。このため省エネルギーを行うことは、私たちにとって◆地球環境（地球温暖化の防止）に良い、◆家計のためにもなる、◆産業の競争力を高める、という一石二鳥にとどまらず、多大な効果をもたらすことになる。環境問題のなかでは省エネルギーは誰も反対しないので、上手に進めれば良い。

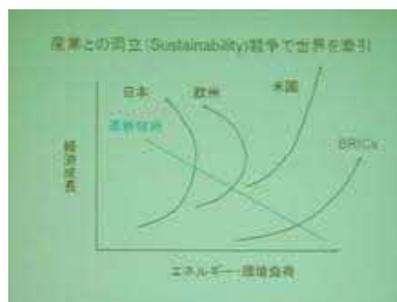
2.省エネ政策の現状と課題

省エネルギー法を経て、トップランナー方式が導入された。これはエネルギーの変換商品を性能の良い物にし、それぞれの商品に技術開発を義務付けるもので、現在では家電・OA機器・自動車・テレビなどに導入されている。開発を怠っていると罰金があり、トップ商品は「省エネ大賞受賞」などという表示で表彰されるというものである。課題としては、この制定はこれまでの姿を変更せず、あまり無理をしないというものなので、根本的な解決にはなっていないのが現状である。

3.省エネラベリングの背景と経緯

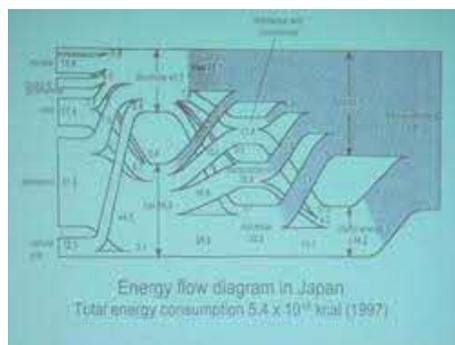
エネルギー消費量が多い家庭用の電気製品としてエアコン・冷蔵庫・蛍光灯・テレビ・湯沸かし器などがあげられる。それらに関する省エネ情報の提供を目的に「省エネラベリング」制度が制定された。しかしエネルギーの消費量は、地域やライフスタイルの違いで大きく異なるため、基準の統一化は難しくこの制度の制

定は非常に困難を極めた。紆余曲折を経て、5段階評価の省エネラベリング制度ができて、表示が義務づけられている。そして今は、優良販売店を表彰するようになった。



4.省エネの国際比較

GDP単位当りの一次エネルギー消費量を日本と他国を比べると日本に対し、ヨーロッパは1.6倍、アメリカは2倍、ロシアは15倍にもなる。日本は非常に優秀で、少ないエネルギーで経済活動をおこなっている。



・白熱電球はなくなる？

技術の革新により、電球型蛍光灯は電力消費量が約5倍の白熱電球に遜色ないほど進化をとげた。2012年には特別な白熱電球を除き、原則として蛍光型ランプへの移行が進められる。

・湯沸かし器はなくなる？

お湯はガスを燃やして、ガスのエネルギーを水にあたえ出来る。このような貴重な天然ガスを使ってお湯をわかすだけに使ってはもったいない。

では、具体的にはどうすればよいか。

◆お風呂は工場の排熱を利用する

貴重なガスは使用せず、工場で出た熱を蓄熱し（トランスヒートコンテナ）使用するようなシステム

（例）川崎市の工場、品川区の八潮団地など

◆下水、生ごみ処理と化学工場などは連携する

ごみ処理時に発生するメタンガスなど埋もれている資源を大切に

「省エネルギー」を進め、貴重なエネルギーを少しずつ、大事に、上手に使っていききたい。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年10月26日

「環境紙芝居～ちきゅうがたいへんだ！&おもしろ！ミニ実験

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年11月03日

平成20年11月3日（月）品川区環境情報活動センターにおいて、講師に児童環境教育研究会代 澤 光春氏、大井孝允氏、磯崎和子氏をお招きして環境学習講座「環境紙芝居～ちきゅうがたいへんだ！ &おもしろ！ミニ実験」が開催されました。

温暖化による地球環境破壊は人類と生物の生存を脅かす近未来かもしれません。物言わぬかわいそうな動物たちが泣いています。かけがえのないこの地球のために、今の自分にできること、また未来の自分ならできることとは何かを、童話の紙芝居と簡単な実験を通じて温暖化の現状と身近な対策を考える講座です。



紙芝居 「えっちゃんとシロのぼうけん」シリーズ二作品を鑑賞。



「ちきゅうがたいへんだ！」は、えっちゃんと犬のシロが魔法の機械『マーボー』に乗り遠い国の草原を冒険します。そこで出会ったカンガルー、キリン、ゾウが、雨が降らないため、水や食べ物が少なくなって困っていることを知り、お父さんに原因と解決策を聞く物語です。

次の作品「シロクマがたいへんだ」は北極の氷が急速に融けている為に食べ物に困っているシロクマの親子の物語です。

先生方の切々とした語り、子ども達はみなじっと聞き入っていました。きっと可愛そうなキリンやゾウ、シロクマの親子のことを考えているのでしょう。

どうしたらシロクマたちを守れるのでしょうか。みんなで考えてみましょう。

未来は変えられる

1. 地球温暖化年表

パネルの2種類のシミュレーション画像は1960年ごろから2050年ごろまでの地球温暖化年表です。パネル上段は「気温」、下段は「降水量」の変化をあらわしています。そして、地球温暖化に関連して世界で起こった自然界の事象の変化をとった写真が年代別に貼られています。

東ネパールヒマラヤ山脈やアラスカの氷河が溶けている写真、白化したサンゴ礁、ブラジル ロンドニア地方の森林伐採による森林の顕著な減少などの様子がわかります。



- アマゾンのジャングルは1時間でどのくらい無くなっているのでしょうか？
答えはサッカーグラウンド150個分。1年間では東京都の10倍の面積が消えているそうです。
- 南米にあるパタゴニア氷河は、毎年どのくらい溶けているのでしょうか？
東京ドーム3万4千個。1日あたりでも東京ドーム約93個分の氷河が溶けているそうです。



2. これからどうなっていくのでしょうか。みんなで考えてみましょう。

今後2050年くらいまでに起こると予測されている温暖化の影響が書かれた「未来カード」を、その出来事が起こる年代を予想し年表に貼ってもらいました。みなさんそれぞれ近いところを突いていました。



答えは

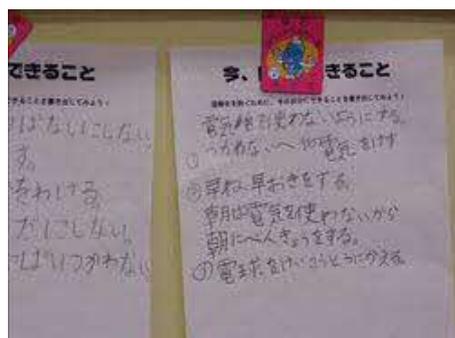
- 2020年「キリマンジャロの山頂の雪が消える」
- 2025年「北極グマやアザラシなど、北極の生き物が絶滅する」
- 2030年「真夏の東京の午後6時の気温が43℃を超える」
- 2030年「世界のサンゴの60%が、この年までになくなる」
- 2040年「この年の夏北極海の氷がとけて無くなる」
- 2050年「この年までに100万種以上の陸上生物が絶滅する」



小学生のみなさんが成人する頃は、シロクマはもう絶滅しているかもしれませんね。みなさんの生きていく未来は大変なことが予想されます！

3. 「今の自分にできること」 「未来の自分ならできること」

こんな大変な問題を解決するために、今のみなさんにできること、また、未来のみなさんができることはどんな事があるのでしょうか。



・まめにコンセントを抜く ・主電源を切る ・ゴミを減らす ・出来るだけ資源ごみにまわす ・お風呂は連続して入る ・水の再利用 ・水筒の使用 ・エコな気持ちで生活する、等

みなさんからいろいろな提案がありました。小さくとも自ら行動していくことが大事なのですね。

大人になったみなさんができることもたくさんあります。地球にやさしいエコ製品を買うとか、子ども達に温暖化防止を伝えていったりすることも、未来のみなさんにできることですね。温暖化問題を忘れることなく今の自分にできることを、ずっと続けてゆく事できっと未来は変えられます！

実験

白熱電球、蛍光灯、LED（発光ダイオード）電球を用いて省エネ比較実験をしました。白熱電球60ワット、蛍光灯12ワット、LEDは10ワットを使用し、1メートル上方のところで同じ明るさになるようにそろえた。

白熱電球から蛍光灯電球にするだけで電気の消費量は5分の一、LEDでは6分の一です。少しの電気で同じ明るさがとれます！



耐久時間は白熱電球1000時間、蛍光灯6000時間、LEDが40000～50000時間使用可能ということです。LEDに関しては、一般家庭での使用で約10年間使うことができます。すごいですねえ。

人間の努力、科学の力を上手に使えば地球環境を変えていけるのではないのでしょうか。そうすれば地球未来予測図もかわります。もちろん、資源の無駄使いをしない

ということは、どんなに科学が進歩しても必要なことです、と、先生は結ばれました。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年11月03日

カードゲームで知る自然の不思議体験

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年11月16日

11月16日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「カードゲームで知る自然の不思議体験」（講師：環境カウンセラー 漆原敏之氏）が開催されました。

この講座は、野生生物の生き方や環境とのかかわりについて、カードゲームを楽しみながら学んでいただくという講座です。

(1)「親子」のご対面

参加者は子どもと大人に別れて部屋の両側に並んでもらいます。

全員が鳥や昆虫のイラストが書かれたはがきサイズの「私は誰でしょう？」カードを一枚ずつ手にします。ここで配られるカードは、大人には「子ども（幼虫や卵）」のカード、子どもには「親（成虫）」のカードです。

子どもと大人はカードを自分の前に掲げながら、合図とともに「親子」がマッチするように動いてもらいます。マッチしたらお互い仲良くなっただきながら部屋全体がにぎやかな雰囲気になっていきました。



私の「親」「子ども」はどこに？



首尾よく会うことができました

(2)鳥の足やくちばしの形には特徴があります。

鳥の足には弱々しく細い足、鋭い爪や水かきのようなものがある足などがあります。一方くちばしは、鋭くとがったり、長く伸びたりとこちらも様々です。これらはそれぞれ生きてゆくために与えられたものです。

生息環境に対応できなかった生物は絶滅していったことでしょう。



鳥の足やくちばしの形いろいろ

(3)ここ品川区環境情報活動センターにいてほしい鳥はどんな鳥？

鳥の足やくちばしなどを勉強したところで、当センターにいてほしい「想像上の鳥」を模造紙に描いてみましょう。みなさんかなり苦戦している様子です。



さて発表です。



鳥の名前は「トリシマリ」です
 「トリシマリ」鳥は、ごみを捨てる人がいると怒ります。
 くちばしを特に一生懸命描いてくれましたね。
 ともだちからは「ここ（環境情報活動センター）にはそんな人はいないよ！」との声、
 確かにその通りです。

鳥の名前は「歌」です
 「歌」鳥は、しゃべったり、笑ったり、人のマネをしたり、泣いている人を見ると
 慰めてくれます。

なかなか想像力豊かに鳥を紹介してくれました。

(4)「食物連鎖ブリッジ」カード

ルールの説明の後、早速ゲームに入ります。ゲームが終わったところで見てみましょう。

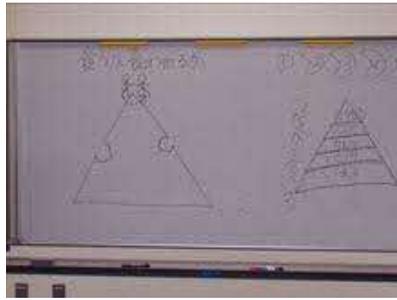


同じ色のカードが1番から5番まで並びました。たとえば緑のカードを見てみます。

1番がイネ、2番はイナゴ、3番はカエル、4番はヘビ、5番はフクロウです。

さてこの5枚のカードはどんな関係にあるでしょう。

フクロウはヘビを、ヘビはカエルを、カエルはイナゴを、イナゴはイネを食べて生きています。それぞれの生き物は彼らの餌がないと生きていくことができません。このようにして生き物はつながっており、これを食物連鎖といいます。



食物連鎖のピラミッド

地球上の生き物全部をこの関係でピラミッドの形に置いたとすると、頂点に来るものは何でしょう。ともだちの中から、即座に「人間」との声がでました。どうもそのようです。

人間を支えるピラミッド、その一部が欠けたらピラミッドは崩れて、人間は地球上で生きていけなくなるかもしれません。実は人間を支えてくれているのは多くの生き物で、それらがつながりを持って生きています。みな大事にしてほしいですね。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2008年11月16日

食べることの楽しさ、大切さを一緒に考えましょう

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月07日

12月7日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、食育をテーマとした環境学習講座を開催しました。「食べることの楽しさ、大切さを一緒に考えましょう」（講師：日本ハム株式会社 加工事業本部マーケティング室マネージャー 長澤和子氏）というタイトルで参加者と一緒に考える機会となりました。

この講座は、私たちの生活の基本である食事に関して正しい知識を身につけていただくことにより、自らの判断により健康で安心した食生活を楽しんでいただくという講座でした。また食べものと環境とのかかわりについてもお話していただきました。



(1)「食育」という言葉を聞いたこと、ありますか？

心と身体の健康の基本となる食生活に関して様々な教育を行うことを「食育」と言いますが、なぜこの「食育」の必要性が言われるようになったのでしょうか。私たちを取り巻く生活環境の変化が、食生活にも大きく影響したことに起因しています。

- ・不規則な食事や栄養の偏り
- ・肥満と過度の痩身願望など

若い女性の中には適正体重にも満たないのに、もっとやせたいと思う人がいる

- ・生活習慣病の増加

以前は成人病と言っていたのですが、子どもの発病もみられるようになり、生活習慣が原因と考えられる病気が増えている

- ・食に関する理解や判断力の問題

などが私たちの健康をおびやかしているのではないのでしょうか。

こういった問題を解決するために、「食育」が必要になってきているという訳です。

(2)家庭ごみになっている食べものの内、その1/4はまだ食べられるものです。

いろいろな理由があって捨てられているとはいえ、もったいない話です。

日本の「食料自給率」（その国の食料消費がどの程度、自国の生産でまかなえているか）はどれくらいでしょうか？

右の表の通りですが、日本の低さが目立ちます。

以前、キューバは多くの食料を輸入していた旧ソ連の崩壊で1人平均9kgのダイエットを強いられたそうです。

そこでキューバは空き地に野菜を植え、結果として生鮮野菜の自給率はほぼ100%になったとのこと。

中国からの食品輸入についても問題はありますが、食料の危機管理を考えた場合、輸入を維持することも必要なかもしれませんね。（フードマイレージとは矛盾しますが、必要なことは

やむを得ません)

私たちにできることは、食べものを無駄にしない、無闇に捨てないということだと思います。

(3)私たちの健康な食生活はどうしたら良いのでしょうか？

◆「食べること」の大切さを考えましょう

私たちの身体は、私たちが食べたものから作られます。

これまでの食歴と食習慣が問題です。

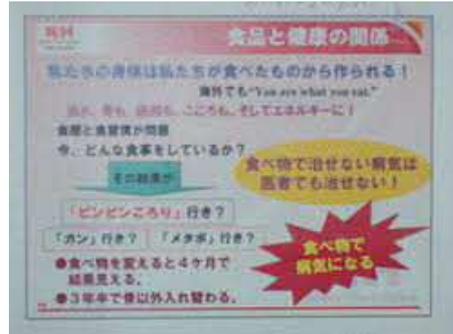
さらに、今どんな食事をしているか？

その結果が、「ガン」になったり？「メタボ」になっ

たり？「ピンピンコロリ」ということになります。

食歴と食習慣を正しくすることで必ず良い「結果」が

現れるといわれます。



◆元気になるために

・リスク・リダクション・・・「守る健康」

リスクを減らしましょう。健康に悪いといわれることはやめましょう。

・ヘルス・プロモーション・・・「創る健康」

健康に良いことを加えましょう。より前向きに積極的に！

健康とは、単に病気や虚弱でないということではなく、身体的・精神的・社会的に良い状態にあるということです。

◆食品の選び方

自然にできている食品で悪い食品はありません。一方、完全な食品はありません。体に良いと言われている食品でも、そればかりを食べ続けたり、飲み続けることはかえって体に良くない結果につながることもあります。

自分で判断できる知識を身につけてほしいのです。

◆食べることを楽しみましょう

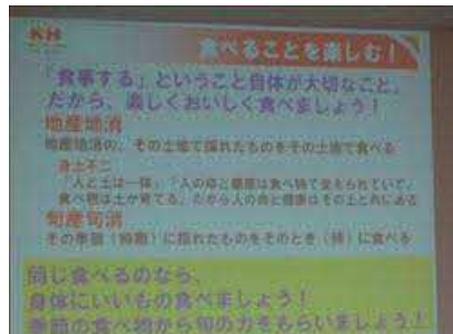
地産地消・・・その土地で採れたものを食べましょう。

フードマイレージにも良いことですね。

旬産旬消・・・その時期に採れたものを食べましょう。

これはエコにも良いですね。

食べることに楽しみを見出さない人が増えていると言われています。正しく食べることで元気な身体を創ってしてほしい、「生命(いのち)の恵み」への感謝の気持ちと、大切にする姿勢を育てていただきたいと願っています。



質疑応答の時間では出席者間での活発な意見交換があり、みなさんの「納得顔」が印象的でした。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月07日

コンビニは明るすぎる？～身近な環境問題を考えましょう～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月13日

12月13日（土）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「コンビニは明るすぎる？～身近な環境問題を考えましょう～」（講師：環境ベテランズファーム正会員・環境カウンセラー 品川昭氏）が開催されました。

今日私たちの生活にとって身近な存在となっているコンビニエンスストア（以下「コンビニ」）について、最近様々な議論が交わされていますが、この講座はコンビニの明るさという点を切り口とし、環境問題の全体から私たちの生活周辺で気づく環境問題までを考えてみようという講座です。



(1)「365日24時間営業」についての議論があります。

この問題はコンビニに限ったことではありません。

しかし、今日コンビニは私たちの生活と切り離せない存在となっているため様々な議論を巻き起こしています。

資源の無駄あるいはCO2排出の問題か、地域の環境問題か、立地の問題か、深夜型ライフスタイルの問題か、事業活動の自由と規制の問題なのかなど、様々な問題が入り組んでいます。

(2) 地球規模での環境問題を見てみましょう。

持続可能な資源の開発という点から次のことが重視されなければなりません。一旦使うと二度と戻ってこない化石燃料（石油、石炭）を大切に使う一方で、自然を活用した新エネルギー（太陽光・熱、風力など）を積極的に利用することが今後必要になってきます。また森林資源を再生可能にすることも今後重要になってきます。

(3)消費者ニーズと社会的役割との調和

コンビニは消費者ニーズに対応する便宜性や深夜型ライフスタイルへの対応というように、生活者に密着した存在として定着しています。一方、街の景観（街並みとの調和）や歴史的・地域文化との調和といった社会的役割も考慮した店舗が増えていきます。

またコンビニとしては私たちの目に見えないところで環境問題についての対策は確実に取っており、今後省エネ型の照明、冷凍冷蔵庫の効率運用等、更なる努力をしてほしいと思います。

(4)ライフスタイルの変革も重視しましょう。

これは社会全体の問題です。

大量生産-大量購入・消費-大量廃棄・・・という連鎖の社会システムの問題、食糧危機や大規模自然災害など予想される危機への備えといった大きな問題から、私たちの身近な問題に至るまで様々です。

私たちにできることはどんなことでしょうか。



◆食品ロスの削減（食べものを大切に）、◆効率的な買い物（必要量優先、冷蔵庫内の点検）とエコバッグの用意、◆自転車や歩きを重視、健康的にも等々、できることは一杯あります。

(5)まとめ

大切なことは、私たちの身近な行動から変えてゆくことです。
豊かさや便利さを限りなく求めてきた結果が今日の問題を引き起こしていることを認識し、今一度「もったいない」という言葉を思い出し、実践してみましょう。
地域の中でお互い協力し合い、循環型社会を目指して行動しましょう。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月13日

梅花の寄せ植え～梅のあまい香りでお正月を飾ろう

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2008年12月15日

平成20年12月15日（月）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「梅花の寄せ植え～梅のあまい香りでお正月を飾ろう」が開催されました。定員20名のところ、133名ものみなさんからご応募をいただき、大変ありがとうございました。今回参加できなかったみなさんほんとうにごめんなさい。この場を借りてお詫び申し上げます。

講師は、寄せ植え講座でおなじみの伊藤金美先生です。今回も秋草会のみなさんが助手を務めてくださり、和やかに会が始まりました。

使用する草木は「梅」「梅花オーレン」「ヤブコウジ」です。梅は小さいほど形を整えるのが難しく、値段も張るそうです。今回使用する梅は樹齢10年ほどで、背丈が20センチほどの小振りのもので、



いよいよ寄せ植えの実習です。まず、梅（主木）の向き、枝の流れを決め、梅を中心に添える草花を配置します。このとき流れ側に空間をあけるのがポイントです！それぞれの位置が決まったら、全体の形と流れをもう一度確認後、梅を針金で固定し、周りを（あか玉）土で固めます。表面に苔を張ったらできあがりです。



さあできました。素敵ですね。みなさんととても満足そうでした。

「梅花オーレン」はとても清楚で小さな白い花をつけます。1月の花の少ない時期に咲く花として大変貴重なのだそうです。「ヤブコウジ」は小さい赤い実をたくさ

んつけます。梅とあわせてお正月にピッタリですね。梅のあまい香りでお正月をお
迎えてください♪



カテゴリ : 平成20年度

投稿日 : 2008年12月15日

「食材を使い切る、食べ残さない～新宿中村屋のシェフが教えるおいしいカレー教室～」

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月24日

平成21年1月24日子ども環境講座『食材を使い切る、食べ残さない～新宿中村屋のシェフが教えるおいしいカレー教室～』を荏原文化センター調理実習室で開催しました。

身近な「食」を通して、楽しみながら親子で環境問題について考えようという講座です。最初に財団法人日本環境協会こども環境相談室の佐野さんに「エコと食べ物」の関係について、お話しいただきました。クイズ形式だったのでみんな真剣に質問に答えていました。そのあと、中村屋広報室の廣澤さんが「シェフとのお約束」と「包丁の使い方」について話してくれました。



そこで、石崎シェフの登場です。まずタマネギやズッキーニなどの野菜の切り方や「今回は使わない野菜の皮もスープを作るときに使います」と説明がありました。カレールウも切って使います。シェフが全部切り終わって、さあみんなの番です。いま教わった事を確認しながら、全部切ってみましょう。



(カレーの材料です)



(材料を切りました)



(サラダの材料です)



全部を切り終わったら、今度は牛肉、野菜をいためます。そこでまた石崎シェフがお手本をみせてくれました。牛肉はさっといためて、お皿に入れておきます。次に薄切りのリンゴをバターでいためました。バターの香りが部屋いっぱい広がっておいそうです。リンゴを入れるのが重要なポイント。みんなお話を聞き逃さないよう、真剣な表情。熱心にシェフの手順を見ていました。そして、みんなの番です。硬い野菜から順番にいためて、お鍋でコトコト煮込み、野菜が柔らかくなったら、カレールウやヨーグルト、牛乳を加えます。最後にシェフが隠し味のしょうゆを入れてくれて出来上がり。



次はサラダです。さっきと同じ様にシェフのお手本を見ながら野菜を切って、塩を3つまみ、ふっておき、食べる時にレモンをかけました。

さあ、できました。作り終わった班から楽しみにしていた試食開始です！自分の作った料理は格別の味。みんなおいしい！と絶賛。塩とレモンだけのサラダは簡単ですが、びっくりするおいしさでした。廣澤さんからシェフに質問がありますか、と問いかけがありました。その質問にシェフは丁寧に答えてくださいました。



食べ終わったところで次は後片付け。みんな協力してあっという間に終わりました。

カレーというと、長い時間煮込まないとおいしくないというイメージがありましたが、今回シェフにおしえていただいたカレーは「短時間」でも、「市販のルウ」を使ってもおいしくできました。少し工夫するだけでずいぶんおいしくなると確認しました。

「おいしく作って食べ残さず、食材は使い切って無駄をなくす、一人ひとりが環境を意識して生活することが、地球温暖化の防止につながっていくと思います。



(出来上がったカレーです)

カテゴリ : 平成20年度

投稿日 : 2009年01月24日

厳しい自然の中でイキイキと暮らすペンギン～カメラを通して見る

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月25日

1月25日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「厳しい自然の中でイキイキと暮らすペンギン～カメラを通して見る」（講師：ペンギン写真家 鎌倉文也氏）を開催しました。

この講座では、これまでに講師が撮影で訪れた南米パタゴニア地方（南緯45度以南のチリ、アルゼンチン地域）、フォークランド諸島（南米大陸南端の東）、南極、ニュージーランドに生息する野生のペンギンたちの写真を紹介していただき、撮影中に見たことや感じたこと、また地球温暖化がペンギンに与えている影響についてお話いただきました。



地球上には大きいものでは40kgほどもあるコウテイペンギンから、1.2kg程度のコガタペンギンまで18種のペンギンが生息しており、棲んでいる場所は下地図の赤色の部分です。



さて南極へは観光船で観光スポットまで行き、ゴムボートに乗り換えての上陸です。

生態系保護、環境保全のため南極へは食べものを持ち込むことができませんし、もちろんごみを捨てるなど厳禁です。またペンギンには5m以内に近づいてはいけないというルールがあります。しかし好奇心の強い若いペンギンが近づいてきました。興味津々なのでしょう。向こうから近づいてくるのですから仕方ありません・・・南極での滞在は一ヶ所最大2時間、このわずかの間に必死にペンギンを撮影しました。



ペンギンは「イルカ泳ぎ」で海中を高速で泳ぎ、海面でジャンプすることがあります。この泳ぎは長距離を速く泳ぐためであり、また海中のオタリア（アシカの仲間）

間)、アザラシ、シャチなどの天敵から身を守り、少しでも海中にいる時間を少なくするためでもあります。正に決死の上陸と言えます。(写真左下)

<写真左下> 手前が陸地で、すでに多くのペンギンが上陸しています。天敵に追われ他のペンギンも波と共に陸に飛び上がってきます。陸地にはケルプという巨大コブがクッション代わりにしてくれています。

<写真右下> コウテイペンギンが海から氷上に大きく飛び跳ねて上陸する瞬間です。



南極でも地球温暖化は進んでいます。海水温の上昇や海流の変化によるエサ（オキアミ）の減少、雨の増加によるヒナの死亡、暑さに弱い種類のペンギンの減少など、確実に温暖化の影響が出始めているようです。

これまで南極の温暖化についてはあまり報告がありませんでしたが、この講座の3日前（1月22日）の朝日新聞では、これまでの説を覆し、「南極全域やっぱり温暖化」の記事が掲載されていました。

南極まで例外なく温暖化している現状を、改めて知る機会にもなりました。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年01月25日

巨木が語る地球&カメラ教室～カメラを通して植物と仲良くなりましょう～

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年02月06日

2009年2月6日（金）に品川シアター & 品川中央公園にて環境講座「巨木が語る地球&カメラ教室～カメラを通して植物と仲良くなりましょう～」が開催されました。講師は写真家の吉田繁さんです。



まずは品川シアターにて各国の巨木の写真を見ながらのお話しです。どの木も全てが大きく、驚かされる写真ばかりでした。講師にお話頂いた数多くの木の話の中でも、特に印象深かったドイツの「サステナブルイールド」と、カナダの「クリアカット」の2つの話をご紹介します。

【サステナブルイールド】



ある村に有名でとても親しまれていた木がありました。しかしその木は樹齢を迎え病気になり割れてしまいます。この村の人々はこの木をどうするか相談をしました。中にはこの木を守りたいと言う人がいれば、切ってしまえば良いと言う人もいて相談した結果、木の保存委員会を作り2つの選択をする事にしました。1つ目は木をこのままほっておく事、2つ目は腐った部分を取り除き添え木をしてなんとか生き残らせる方法です。村人は議論した結果、1つ目のこのままほっておく決断をします。でも何もしないのではなく、幸いな事に木には種をつけていたので苗床を作り、木を増やす運動を始めました。

森に関わっているとサステナブルイールド（永続可能な環境）という言葉聞くそうです。でも、いったい森に対してサステナブルイールドとはどういう事なのかと考えるとこの村の決断、苗床をつくるという事も「永続」なのではないでしょうか。もうこの木は助からないけれど木を増やしていくことで、違った意味での再生をさせていく事にはならないでしょうか。延命治療が駄目と言っているわけではないですが、100年後、200年後に同じ場所を通った時に増やそうと頑張った人たちがいたのだという事が受け継がれ、次の世代の人たちがどう思っていくかが大事だと思うのです。だからこれは彼らがとった永続なのです。

今の自分達は永続可能な生活だと思えますか？石油をどんどん使うなど、とても永続していける生活だとは思えないですね。

環境について考えていく大切さが「永続」という言葉で伝わってくるお話でし

た。私達が今日教わった事を家族や友人などにも伝え、受け継いでいく事も大事な
のですね。

【クリアカット】

カナダで材木屋はクリアカット（全ての木をきりつくして何本かいいものだけを
持っていく事）を行っていました。そんな材木屋ですがサステナブリードつまり永
続可能な森作りをしているというのです。でもクリアカットをしているのにそれは
おかしいと思いませんか。実は材木屋は森林成長率を数値化して、もし全体が
102%だとしたら「0.5%切ったっていいじゃないか！100年たてば戻らだろ
う。」という考えなのです。

やはり、これは問題になり最高裁まで行きましたが、国はある地域は国立公園と
して守り、ある地域は伐採を続けるという判断をしました。これは良いも悪いも私
達には何も言えないのです…何故ならその木材を日本も買っているからです。資
源の無駄をするのは日本人の責任でもあるって事です。でも知らない間に使ってい
るのが現状ですね。

ですが、これは先住民のハイダ族の話です。彼らの土地が切られたことによる抵
抗です。

所有という概念だと、国のものなのですけどね。

そしてクリアカットは巨木にも影響を与えます。森の中にあるはずの巨木から海
の底にしかない成分が発見されています。何故、海の成分が森の中にあるのかとい
うと大きな木のある森にはブラックベアがいるからなのです。でもクマは海の生き
物ではないですよ。実はクマが食べたシャケが巨木に海の成分を与えているので
す。クマはシャケを河で捕り陸に上がってから食べ始めるのですが、その食べ方は
とてもきたなくその食べ散らかした物は土に残り養分となります。これが原因で巨
木から海の成分が発見されたのです。このため巨木は川の近くにあり、かつ森とク
マとシャケの3つが揃っている所に巨木はあるのです。でももしもシャケがいな
いと木は海の成分がとれず木は巨木にはなりません。クマがいなければそのシャケを
運んでくれません。そしてこの森をクリアカットすると生命全てが止まってい
巨木が見られる事は無くなってしまいます。全てが繋がって巨木になるのに、こ
れで100年後に戻ると言えるのでしょうか。

これは私達人間が生物（動植物）の繋がりを消して資源を手にいれている事がわ
かるお話でした。一つを消せば全てが無くなってしまいう事を知らずに私達は生活し
ているのですね。

●写真撮影タイム

写真撮影を品川中央公園にて行いました。



先生に教わったコツを使いながら木の写真を撮ります。



↑の写真は受講者の女の子が撮った写真です。
「ここがいいかなあ～」と悩みながらも楽しそうに一生懸命写真を撮っていました！



写真撮影後、環境情報活動センターにて、吉田先生より日本の巨木についてなどのお話いただき講座終了です。巨木にとって環境とはとても大事な事だと実感できた2時間となりました。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年02月06日

フォトジャーナリストの視点で環境を語る～世界の辺境地で見て、考えた“地球といのち”

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年02月26日

2月26日（木）品川シアターにおいて、環境学習講座「世界の辺境地で考える“地球といのち”」（講師：フォトジャーナリスト 桃井和馬氏）を開催しました。桃井氏はこれまでに取材で世界の約140カ国を訪れており、そこで見た戦争や飢餓、貧困と環境問題は深い関係にあると考えました。この講座では取材で撮影した写真を品川シアターのビッグスクリーンで見ながら、ジャーナリストの視点から世界の辺境地での環境問題についてお話いただきました。



良い写真とはどんな写真でしょう。それは見ているものの背後が想像できるものです。桃井氏の写真を見ると、確かにこの写真が何を言わんとしているのか、分かるような気がしてきます。中部アフリカにあるルワンダでは、1994年に800万人の人口の1/8にあたる100万人が大虐殺されました。原因は民族紛争とされていますが、環境破壊による食糧不足であると桃井氏は考えます。木を伐採し、土地が侵食され、作物ができないため食糧危機が起こります。人が少なくなれば楽になるといった噂が広がり虐殺につながったというものです。世界では土地や資源、食糧獲得のため過去に戦争が起こり、現在も起きています。この共通項は地球にあるものをめぐっての争いであり、その結果環境破壊が起きているのです。

自然界に生きる動物は何らかの役割を持って生きています。地上最大の哺乳類であるアフリカ象は大量の植物を食べ、フンを撒き散らしながら移動しています。フンの中には消化されない植物の種がたくさん混じっており、植物は象に食べられることでいろんな場所に子孫を残すことができるのです。またフンコロガシは象のフンを食べる虫で、彼らのおかげで大きなフンは短時間に処理され、病原菌が広がることもありません。フンコロガシのメスは象のフンに卵を産み、そのフンを転がすことにより安全な場所に卵を運びます。



ハイエナは狙った獲物の8割を倒すといわれている「狩の名人」です。彼らは腐りかけた肉や硬い骨も食べることで自然の地に残すものを最小限にしてくれます。

木造家屋の多い日本では特に嫌われ者のシロアリは、枯れたり切られたりした木だけを食えますが、自然界では地面に倒れた木々を片付けてくれます。そのおかげで

地面の草木はいっぱいの太陽を浴びて、大きく育つことができるのです。



このように自然界に存在する動植物は、お互いかかわりをもった循環の中で生きています。しかし私たち人間は自然界でどんな貢献をしているのでしょうか。人間が引き起こしている地球温暖化や自然破壊が、その循環を崩しつつあります。今私たちがしなくてはいけないこと、それは自然を見つめなおし、生き物の生命を守ることでないでしょうか。ジャーナリストならではの切り口から環境問題についてお話いただき、出席者の方々にもご満足いただけたと思います。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2009年02月26日

ベランダで楽しむガーデニング

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月07日

平成21年3月7日（土）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「ベランダで楽しむガーデニング」が開催されました。今回は200名近い応募があったため、参加できた皆様は大変幸運な方です。最初に講師の齊藤久芳様（千葉市花の美術館館長）より、「ガーデニングの楽しみと環境」についてお話いただきました。次に講師の菅原由紀様（千葉市花の美術館花卉園芸係）より「コンテナ寄せ植え」のポイントについて写真を見ながら教えていただき、10分の休憩のあと、菅原様のご指導により、コンテナを使った寄せ植え実習を体験しました。



本日の花の種類は、「ランタンキュラス」「リナリアグッピー」「デイジー」「ディモルフォセカ」「クリサンセマム」「ワスレナグサ」の6種類です。

1. 日本人のガーデニング趣味

◆万葉の時代から植物好きの日本人◆江戸時代のガーデニングブーム◆現代人のガーデニングという順にお話しいただきましたが、特に印象深かったのは、◆の江戸時代のガーデニングのお話です。將軍から長屋暮らしの庶民まで広がっていて、万年青（おもと）や朝顔など、新種を作ったり、珍しいものが投機の対象になったようでした。それが幕末まで続いていたとは驚きです。



2. どんな草花を栽培するか

◆日本人の好きな花◆流行の草花、昔なつかしい草花
齊藤先生は、「皆さんがどんな花が好きかアンケートをお願いします」と話されました。千葉市花の美術館では、みんなが好きな花を植えておくとう入場者が増えるそうです。チューリップやコスモスを見に来てくれる方はいますが、万年青（おもと）を展示してもたぶん誰も来てくれません。花にも流行があり、24年前とはずいぶん違っています。ひまわりはランク外から5位に上がり、反対に菊は3位から14位になっています。ただし、さくらは1983年と2007年の調査で1位となっています。

3. 環境に配慮したガーデニング

人だけでなく生き物も喜ぶガーデニングや眺めて美しいガーデニングなどがあるので、いろいろ楽しむ事ができます。

《詳しいレジュメに沿って、このようにお話いただきました》

そして次に、コンテナ寄せ植えのポイントについてのお話です。寄せ植えの写真は、こんなものを作りたいと思わせるものばかりで、これらの写真や菅原先生のお話を伺ってガーデニングの実技が始まりました。向かい合わせの方が2人で1組になり、自分の選んだ花を1つの鉢に植え込みます。本日の花6種類8鉢を組み合わせ、各自の寄せ植えを作ります。まず花を選び、丈の高い鉢「ランキユラス」や「リナリアグッピー」を中心に据えて、丈の低い鉢6鉢を周りの色を考えて植え込みます。今回はポットのまま、全体を形作り、実際の鉢植えは家に帰って植えることになっていましたので、土代わりの新聞紙を敷いて体験しました。



皆さん真剣に実技に取り組んでいました。セミナールームの定員まで集まっていたので、花と皆さんの熱気でいっぱいでした。出来上がってから質問があつて、最後まで熱気が途切れませんでした。

質問は、◆肥料はどうしたらいいですか？（答え：何倍かに薄めて使う液体肥料

を1週間か2週間に1度与えます) ◆長いプランターでもいいですか? (答:今は
いろんな形があるので、場所に応じて楽しんでください) ◆水遣りはどうしたら
いいですか? (答:置き場所によって違うので一概には言えないが、乾いたらたっ
ぷり与えます) ◆土の配合は...? (答:通常は赤玉土6と腐葉土4ですが、ブレンド
された物を売っているので利用したらいいと思います) など、沢山の質問がありま
したが、丁寧に答えていただきました。

好きな花のアンケートは、齊藤先生あげた40種のうちで、やはり桜が1位で、2
位が薔薇、3位が向日葵(ひまわり)でした。1票の入らなかったのは、11種で
した。

ガーデニングに興味を持っている方が、年齢・男女を問わず、大変多いことを感
じた講座でした。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2009年03月07日

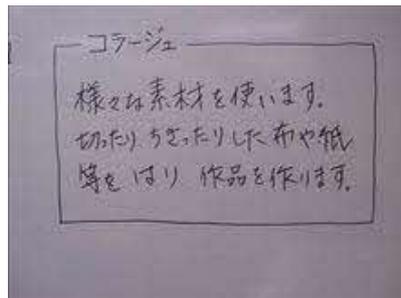
世界で一冊のアート本（絵本）

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月10日

平成21年2月13日（金）品川区環境情報センターにおいて、環境講座『世界で一冊のアート本』（講師：竹中信子氏）を開催しました。先生からコラージュについての説明とアート本の作り方を教えていただきました。

アート本とは、使わなくなった品を好きなように貼って、コラージュ作品を作り、まとめて本にするものです。



http://shinagawa-eco.jp/mt_kouza/DSCF1998_m1.html onclick="window.open('http://shinagawa-



[◆ 家庭で出る不用品「ボタン・布・毛糸・ビーズ・ひも・雑誌の切り抜きなど」を使ってA4の大きさの紙に材料を貼り付け、コラージュ作品を作ります。出来上がると絵画のようになります。](http://shinagawa-</p></div><div data-bbox=)

◆ テーマはあってもなくても良く、意味のあるものでもないものでも良い、自由な表現で作品を作ります。

◆ 出来た作品をスキャナーで読み取り、パソコンに取り込んで、プリンターからカラーで印刷します。

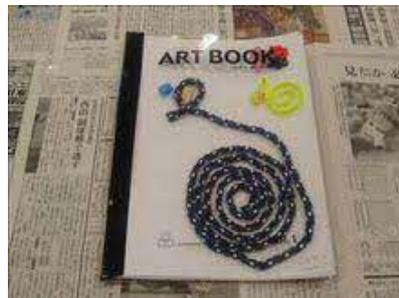
◆ 自分の作品を表紙にして、印刷した出席者の作品を好きな順にまとめて冊子を作ります。

◆ 全部あわせてホチキスで綴じ、製本テープをまきます。これでアート本の完成です。



すぐ取り掛かった方もいれば、雑誌から好きなページをゆっくり探す方もいます。みなさん思い思いの手順で作業に取り組み、ずいぶん長い間、セミナールームはハサミを動かす音しか聞こえなくなりました。

最初に来上がった方は、30分ほどで完成。それから続々と作品が出来上がりました。9枚の作品を9枚印刷しましたが、2作目の作品を作った方が4人いらっしゃったので、追加分4枚と、先生の作品を1枚加えて、全部で14ページの冊子ができました。表紙が厚くて少しとめにくかったけれど、先生の協力で完成しました。



出席された方の中には、はじめは聞きなれないコラージュ作品というものにとまどって、「何を作っているか、イメージがわからない」という方もおられました。出来上がった作品はそれぞれの個性が表現されていて、なかなかのものでした。ぜひご自宅でも楽しんでいただけたら、と思います。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月10日

光のジュースで遊ぼう！

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月14日

3月1日（日）品川区環境情報活動センターにおいて、環境学習講座「発光ダイオードを使った光と色のふしぎ探検 ～光のジュースで遊ぼう！～」(講師：おもしろ！ふしぎ？実験隊 久保利加子氏)を開催しました。



LED（発光ダイオード）という言葉聞いたことがあると思いますが、私たちの身近なところでは交通信号機に使われるようになってきています（それぞれの色はLEDの小さな点光源が集まっています）。その理由は、消費電力（エネルギー消費）が少なく、寿命が非常に長いからです。また熱の発生が少なく、熱くて触ることが出来ない白熱灯に対し、LEDは熱くはありません。このように地球にやさしいLEDは将来、白熱電球や蛍光灯に代わって様々な照明器具などに利用されることが期待されています。この講座ではLEDで光と色のどんな新たな発見ができるか、皆さんの手で体験していただきました。

テレビの画面をビー玉や虫がねを通して見ると、白く写っている洋服も色鮮やかな洋服も、すべて赤・緑・青の3色の光でできていることがわかります。テレビの画面は、この3色の光の明るさを少しずつ変化させることによりさまざまな色の光を作り出しているのです。



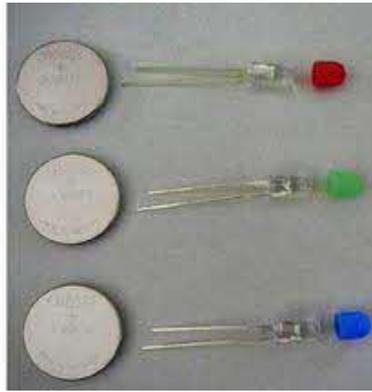
光の3原色と同じように「色の3原色」もあります。色の3原色とはシアン、マゼンタ、イエローで、カラーインクジェットプリンターのインクの中に見つけられるでしょう。

色の3原色は赤青黄ではなかったの？と思う方もあるかもしれませんが、正確には上記の3色です。昔から数種の絵の具を混ぜると新しい色を作ることができるのはわかっていましたが、この3色を使うと簡単に目的の色を作り出すことが出来ます。

1. 光のジュースでいろんな色の光を作ってみよう！

次の実験材料を使っていろんな光を作ります

- ◆ボタン電池（3V）3個
- ◆LED（赤緑青それぞれ1個）
- ◆LED拡散キャップ（赤緑青それぞれ1個）
- ◆白の紙コップ4個
- ◆仮止めテープ（はがした後ベタベタしない）
- ◆暗い部屋で行う



(1)LEDをつけてみよう

ボタン電池（前ページ右下写真の左の円形のもの）をLEDのリード（同写真の長さの違う「足」のようなもの）に挟むと点灯します。必ず1個の電池に1個のLEDとします。それをテープで止め、それぞれの色の拡散キャップをつけます。

(2)光のジュースを作ってみよう

点灯した3色のLEDをそれぞれ紙コップに入れると、まるで色のついたジュースのようです。この中で赤がとてもしばや明るい（規格が同じLEDや電池を使うと、赤のLEDは他のLEDより低い電圧で点灯します）。同じ明るさにするために赤のコップの上にもう一つコップを重ねます。（左下写真、赤のコップ）



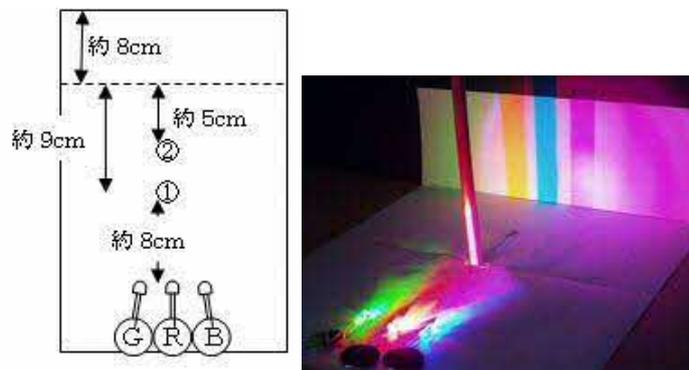
→



赤の光のジュースに青の光のジュースを注いでみる（赤のコップに青のLEDをすべり落とす：中上写真）と、どんな色になったでしょう（右上写真）？ そう、色の3原色で見たようにマゼンタになりました。他の組み合わせもやってみましたがいエローやシアンに、さらに全部一緒に入れると（やや赤みがかった）白になりました。

2. いろいろな色の影を作ってみよう！

A4の白いコピー用紙に左下図を書きます。点線は谷折にして垂直に立て、スクリーンにします。拡散キャップを取りはずしたLEDを点灯します。



◆の位置に鉛筆を立て、スクリーンに映る影の色を観察しましょう（上写真）。同様に◆の位置でも観察し、さらに鉛筆をもっとスクリーンに近づけてみましょう。鉛筆とLEDの位置を変えるたびに、いろいろな色の影が現れます。LEDを使った光と色のサプライズ、想定外の驚き、へー！など、参加者の皆さん（子どもさん、保護者の方）は自宅に良い体験をお持ち帰りいただいたと思います。

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月14日

春の寄せ植え

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月16日

平成21年3月16日（月）品川区環境情報活動センターにおいて、環境講座「春の寄せ植え」が開催されました。講師は毎度おなじみ、園芸研究家の伊藤金美先生です。今回も、秋草会のみなさんが会場設営からお花の準備まで、いろいろお手伝いをして下さいました。大変ありがとうございました。



今回は「サギソウ」と「紅チガヤ」の山野草を寄せ植えします。サギソウはラン科で、地中に球根を作る多年草です。山麓地帯や湿原などの日当たりのよい湿地に自生しますが、最近では、生育環境の破壊などで、その数は減少しているそうです。ベニチガヤは真っ直ぐにつんと伸びる、緑の美しい植物で、秋には葉が紅色になり、純白のサギソウと合せるととても涼しげでさわやかです。



まず、先生から山野草栽培のポイントとして、草花の特徴、用土、日当たり、水やり、また、配置などの詳しい説明がありました。

それでは、実習にはいります。サギソウは鉢の中心より少し右側、上寄り、4分6の割合で植えるのが最も調和的で美しいとされる黄金比なのです。次に、サギソウを囲むように紅チガヤの球根を入れ込み、土をかぶせます。このとき、球根にはなるべく手を触れないように、割り箸を使用します。これは球根に雑菌がつかないようにするためなのです。最後に、腐敗防止用の川砂を表面にのせればできあがりです。





でき上がりました。今はなにもなくて寂しそうですが、7、8月頃になると2、30センチの花茎を伸ばし、先端に2、3個の花をつけます。純白のサギソウは実に爽やかな夏の花です。この花の形が、飛んでいる白鷺に似ていることでこの名前がついているそうです。右下の写真は伊藤先生の作品です。とても素敵ですね。寄せ植えされたみなさんも、この夏綺麗なサギソウを咲かせて下さい。きっと、その美しさに改めて感動することでしょう。そのせつは是非ご一報くださいね。



カテゴリ : 平成20年度

投稿日 : 2009年03月16日

生きもの博士になろう！

カテゴリ：平成20年度

投稿日：2009年03月26日

平成21年3月26日、28日、29日の3日間、春休みこども環境学習講座『生きもの博士になろう！』を開催しました。春休み中の短い期間にもかかわらず、多くのみなさまにご応募を頂き本当にありがとうございました。
本講座は全日程、室内（環境情報活動センター）と野外（しながわ中央公園）での実施でしたが、幸い天候にも恵まれ気持ちの良い自然観察ができました。

野生生物をテーマとして、自分たちの住む街に生息する生きものを観察し、生きものの不思議な知恵や工夫を、五感や体験を使って楽しく考える体験型環境学習講座です。講師にはNPO法人生態教育センター 小林友美先生と村松亜希子先生において頂き、講座は連日元気な小学生のエネルギーでいっぱいでした。



第一回目「植物のふしぎ発見」（3月26日）

植物は自分では動けません。ですから、いろんな方法で種子を遠方に散布しています。そうやって子孫を残す知恵や工夫をしているのですね。それでは、植物たちはどんな工夫をしているのでしょうか。

先生は、三種類の植物の種をみんなに見せました。これらの種は一体どうやって遠くに運ばれるのでしょうか。

1. 葉っぱのようなものにくっついてる種



(生態教育センターより提供の写真)

この種はひらひら風によって遠くにはこんでもらいます。

2. 先がかぎ状に曲がったとげのついている種



動物の毛に付着して運ばれます。

3. 甘酸っぱい香りのする柚



鳥や、動物に果実といっしょに種を飲み込んでもらい、消化されない種は糞といっしょに排泄され、やがて発芽します。

など、実にいろいろな方法で、植物は子孫を残す知恵やふしぎな工夫をしています。種はこの他にもみんなの身の回りにたくさんあります。それではどんな面白い種があるかみんなで公園に行って探してみましよう！



公園の北側沿いにあるサンシュユの木のところに来ました。少し前まで黄色の小さな花をたくさんつけていたそうですよ。木の周りに何かの種があるみたいですね。窪みになにやらたくさんの植物の種が落ちています。ひらひら舞う種があります。米粒みたいな種もあります。でも、これらはこの木の種ではありません。どこか遠くから飛んできたものだと思います。先生は、子ども達の見つけてくる種を一つずつ丁寧に観察し、適切なコメントを与えていました。



今度はイチヨウの木です。イチヨウの実は銀杏ですね。人間も銀杏の実を食べます。でも、人以外にも、銀杏を食べる動物がいます。タヌキです。タヌキは銀杏のまわりの臭い部分を食べます。タヌキの排泄物の中には消化されない銀杏の種（下の写真）の部分だけが入っており、遠い所に種は運ばれるのです。



(生態教育センターより提供の写真)

マテバシイ（ドングリのなる木）のところにやってきました。ドングリがまだ沢山落ちているようです。植物を踏まないように、少しだけ中に入って探してみましよう。この公園にはいませんが、リスはドングリが大好きです。リスは食糧を蓄えておく習性がある、他の動物に見つからないように、土に埋めておきます。そうした種が、いつか木になるのですね。



エゴノキです。5月になると白い花が咲きます。去年の種がまだ木に残っているようです。ヤマガラがこの種を好んで食べるそうです。鳥の中には餌の少ない冬場に備えて、種を土中に隠しておく習性があるものもいるのですが、こうした種が春になって芽吹き、やがて木になるのですね。



この他にも、色々な木の周りにいきました。そしていろんな種を採集しました。子ども達は先生から頂いた小さなビニールの袋に、見つけた種を宝物のように一つひとつ入れていました。それでは、センターに戻って、みんなで観察してみましよう。



センターにて

ひらひら風に運ばれる種、動物の毛にクっついったり、又、食べてもらったりして運ばれる種、いろいろありました。



その他にも、先生はとても珍しい種を紹介してくれました。ムクロジの種は、表面についている殻を剥いて、水の入ったペットボトルに入れてシェイクすると写真のように白く泡立ちます。昔の人はこれを石鹼代わりに利用したそうです。(写真1) タネは羽根つきの羽の先に使われています。(写真2) 又、種を一つずつ落としていく豆の種、タンポポの綿毛みたいなものが出てくるもの、水に触れると動き出すカラスムギの種。(写真3) 目からウロコです。植物は実に涙ぐましい努力をして次の世代へと命をつないでいるのですね。たくさんの「植物のふしぎ」を発見しました。



(写真1)ムクロジの殻をペットボトルに入れてシェイクしたもの



(写真2) ムクロジの種



(写真3)カラスムギの種

第二回目「昆虫を探しに行こう！」(3月28日)

2日目は虫博士になりましょう！



まずは皆がどのくらい虫が見分けられるか挑戦です！画面に4つわかれた所に虫が隠れています、皆どれが虫かわかるかな？答え合わせは先生の「こ・ん・ちゅ・う！」の掛け声の跡に皆で「パンッパンッパンッ」と手拍子をしてリズムよく発表。「あー！！あそこにもいたっ！！」と楽しそうでした。

皆に目を鍛えてもらった所で虫探しにしながわ中央公園に移動。



まずはこの木に虫の何かがあります。探していると「これかな？」と発見した様子。発見できたけど「なにこれー？」、「トゲトゲしてるから服にくっつくやつかな？」と、皆これが何なのかわりません。実は、これはてんとう虫のさなぎの抜け殻なのです！てんとう虫は良く見ますがてんとう虫の幼虫の抜け殻を見たのは初めてって子が多かったようです。よく見ないとこんな所にいるのは気づきませんね。



次は公園の柵にいる虫を探します。普段、何気なく通っている道の柵にもたくさん虫がいるって知っていましたか？

柵にはこ～んな虫たちがいました。（クモ・クモの巣・クモの卵・アブのサナギ・カマキリの卵）



どうしてこんな所に虫がいるのかというと、寒さや風があたらない所で、あまり人目につかない所や外敵から身を守るのに丁度良い所のためだそうです。



次は虫の足跡をさがします。「ここに虫の通ったあとがあります！どれかな～」と、先生に言われ一生懸命さがします。良く見るとつぶつぶのちっちゃい土の固まりを発見。実はこれ、ミミズの通ったあとなのです！これは、ミミズが土を掘って入る時に出てきたものなのです。



虫さがし中に面白いものを発見した子がいました。葉っぱに丸い穴が一行に空いています。

どうして葉っぱに穴が空いているのかというと、これはまだ葉っぱが丸まっている若くておいしい時期に幼虫がやってきてパクッと一口食べた後なのです。虫はいろいろ面白い事をしてくれますね。

最後に公園で落ちていた葉っぱや枝をつかって自分のオリジナルの虫を作りました。



特徴や得意技も一緒に考えます。女の子は可愛い虫を、男の子はカッコイイ虫たちをつくりましたよ！卵を守るために口の中に入れて倒す虫など様々なアイデアがでていました。

最後に先生達は、「あたたかくなるというんな虫がでできます。どうしてここにいるのか、どんな得意技を持っているのかまた考えてみてくださいね」とお話しくださいました。今回見た虫たちがあたたかくなるとどう変わっていくのか、これからもまだまだ楽しめそうです。

紹介しきれませんでした。他にもたくさんの虫たちを発見しました。残念ながらご参加できなかった皆さんも公園に虫をさがしに行ってみてくださいね。意外な所に虫たちは隠れていますよ。

第三回目「身近な鳥の生活ウォッチング」（3月29日）

みんなが良く知っているスズメ、本当に知っているでしょうか。6枚の絵を見て、スズメの顔・脚・しっぽ・くちばし・羽根・模様などの違いを探してみました。みんな、手を上げて、違うところを答えました。さて本当のスズメは？答えは3番のスズメで、25名中、半分の13名が正解でした。



鳥は暮らし方によって、身体や模様の違いに意味があります。鳥に変身してもらい、3択クイズでそれぞれの特徴を探してみました。

1.アツシくん鳥「色が黒い、足にヒレがある」足をみればどこに住んでいるかわかります。

水に棲んでいますね。

2.マユカちゃん鳥「くちばしが長い」何を食べているかわかります。

魚を食べていますね。

3.ヒナコちゃん鳥「緑色の羽がついている」羽をみればどこに住んでいるかわかり

ます。

木に棲んでいますね。

これらの3匹の鳥たちのように、どんなものを食べているか、どんな場所に棲んでいるか、それぞれにあった形をしています。これは難しい言葉で「適応」といいます。

スズメが茶色なのは、土の近くでエサをとっているからで、短いくちばしなのは、土のなかの虫とか、木の実など小さいものを食べるのに適しているからです。



それではどんな鳥がいるか、みんなで公園にいった探しましょう！

区役所を背にして、公園を時計回りに歩きました。まず、最初に見つけたのはスズメです。さっき見た絵を思い出しながら観察しました。鳥を探すポイントは、鳥の声です。「何種類の鳥の声が聞こえるか」「他にどんな種類の音が聞こえるか」目をつぶって耳を澄ませました。



「何種類の音が聞こえましたか」、という小林先生の呼びかけに「はっばが散らばる音」「鳥の声」「5種類」等色々な答えがありました。「2種類の鳥がいたのがわかりましたか？」と小林先生。

「チュッチュッチュッチュッ」と鳴くスズメ、「ヒョッヒョッ」と鳴くヒヨドリがいました。

電線にスズメが留まっていて、さっきの絵と同じ柄でした。メジロもいました。村松先生が「みんな、メジロは何色だった？」みんなは「緑色！！」と答えました。木の上にいる鳥ということがわかりましたね。



桜の木の近くにやってきました。枝がゆれると鳥がいる証拠です。「ああ、いたいた」みんな枝を見上げて鳥を探します。「鳥を驚かさないように静かに探しましょう」と注意されたのに、鳥を見つけるとつい声がでます。黒いネクタイをしているような鳥はシジュウカラです。桜の木に留まって、花を食べていました。

「ピーピージュクジュクジュク」とシジュウカラが鳴きました。これは怒っている

ときの声です。これで、スズメ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、それに遠くで飛んでいたカラスを加えて、5種類の鳥を見つけることができました。



花のまわりにはたくさんの鳥がいます。「食べた証拠」を見つけましょう、と小林先生がみんなに呼びかけました。鳥は花の根元に「みつ」があることを知っています。落ちた花に、鳥が食べた跡がみつかりました。花だけでなく、鳥は木の実も大好きです。

エゴノキの近くまでできました。このエゴノキの実も鳥はよく食べます。「どんなくちばしの鳥だと思う？」小林先生がみんなに質問。答えはヤマガラ、短いくちばしをしています。ヤマガラはおもしろいくせがあって、実を土に埋めておく事があります。そして埋めたことを忘れてしまうのでエゴノキは芽を出す事ができます。鳥の巣はおもしろい形をしています。メジロは人間のまわりのもの、髪の毛とかシュロのほうきなども使って巣を作ります。

シジュウカラの巣↓



↓メジロの巣

↑カラスの卵

センターにて

今度は画用紙にオリジナルの鳥の絵を書くことになりました。「どんな食べ物を食べるか?」「どこに棲んでいるか?」「どんな巣ですか?」「どんな卵?」いろいろなことを考えながらみんな絵を描き始めました。となりの子と相談したり、図鑑を見たり、先生に聞いたり、それぞれ完成させた絵を、5名がみんなに発表しました。

身近な「植物」や「昆虫」や「鳥」と一緒に暮らせる街づくりが重要であると今回の講座であらためてわかりました。





※公園の使用につきましては許可を得ています。

カテゴリ: 平成20年度

投稿日: 2009年03月26日